

- ◆平成30年1月3日(水)
- ◆岡山朝日高校グラウンド
- ◆約70名

母校グラウンドに多くのOBらが集い、年代別の紅白戦や現役との交流戦を楽しみました。写真は午前中に行われた試合の様子です。また、J2シーズン中は有志により「ファジアーノ岡山FC」の応援も続けています。

(昭50卒 川井立夫)



朝日高校「資料館」より

■ 所蔵作品の修復

同窓会の方々の母校支援による所蔵作品修復は平成24年に始まり、修復を終えた作品は30点を超えています。昨年度(同窓会の会計年度では平成30年度)、資料館では元美術教諭坂手得二先生の油彩画「経蔵」「松」の修復を行い、1月に完了しました。階段校舎では「経蔵」は会議室に、「松」は図書館正面の壁のやや高いところに飾られており、記憶に残っていらっしゃる方々も多いでしょう。「経蔵」は絵画の洗浄、補修ばかりでなく額も修理し、前面にアクリルをはめ込みました。「松」はアクリル取付けと額の補修が主でしたが、業者がサービスで洗浄してくださり、鮮やかな色彩が甦りました。修復が

必要な作品は書道作品を中心にまだ残っています。同窓会の方々のご理解とご支援を今後ともよろしくお願いいたします。



■ 資料紹介「運動会の絵葉書」

本年6月、岡山市在住の渡辺泰多氏より「岡山中学校尚志会第廿九回陸上大運動会」(大正5年)の絵葉書8葉(4葉は未収集)の寄贈を受けました。資料館所蔵の同種の絵葉書は41葉となりました。これらは市販品と思われませんが、何枚セットだったのか、セット販売が前提であったのかなどわからないことは多くあります。しかし、競技や会場設営の変遷を追うことは可能です。とくに第29回は『烏城』第57号(大正6.3.15)記事と相まって多くのことを知ることができます。今回の寄贈品の中から「長距離競争」の絵葉書を紹介し

ます。特筆されるのは「緑門」が左端に写っていることです。緑門とは杉葉などで覆ったアーチ状のアントラ^{アーチ}スゲートのことで、生徒らは「緑門」と呼んでいたようです。西洋化の影響を受け、祝祭の際に緑門をつくることは明治中期から全国的に盛んになりますが、本校運動会では明治27年に初めてお目見えしました。烏城記事からは、運営を担当した5年級が制作し、毎回相当凝ったことをしていたことが判るのですが、写真は全く残っていませんでした。一方、第30回以降の絵葉書には緑門は写っておらず、陣幕で校門を装飾するという簡素なつくりとなっています。つまり、この絵葉書は緑門を写した唯一のものであるばかりでなく、旧制中学時代最後の緑門を写した貴重な資料ということができます。

緑門上には「UNDOHKAI 2576」。皇紀が時代を感じさせます。左右の飾りは鳥のイラストでしょうか。



本丸本段上の平屋建寄棟造の校舎も注目されます。明治29年、本校は岡山城本丸跡に移転してきましたが、この校舎はその際、生徒控所(生徒は生徒控所で勉強し、授業の際に教室へと赴いた)として建てられたものです。しかし、大正6年にはこの場所に武道場が新築されます。写真に写り込むことの少ない生徒控所の、最後の姿を捉えた貴重なカットです。

陣幕で囲まれた区画にも目がいきます。おそらく『烏城タイムス』の臨時の編集局でしょう。同新聞をリアルタイムで発行して運動会を盛り上げようとしたことが『烏城』に記されています。残念ながら、戦前の同新聞は残っておらず、記事内容以上の活動実態はわかっているわけではありません。

なお、「長距離競争(5,000m)」は午前と午後の2回行われています。影の方向からして前者でしょう。他年度の記事から推察して、相生橋を渡り、原尾島経由で鶴見橋を越え、電車筋(この支線は戦後廃線)、渋蔵門(石山門)を経て校庭に戻るコースと思われますが、実際には4.5km程度というところでしょうか。

絵葉書1枚でも様々なことがわかります。校史に関わる資料がございましたら、資料館にご連絡ください。